2022年度 慶應教養大学 教養研究センター主催 基盤研究 教養研究講演会 no. 7

キリスト教は『世界』をどう取り戻すか 一教済宗教のakosmismを越えて

思想のテーマは神か世界か人間かであって、古代(ギリシア)の 思想は世界を原理とし、中世(キリスト教的ヨーロッパ)は神、そして 近代は人間を原理としたと言われる。近代において人間を原理とし た判断の下でキリスト教的神は自然的世界との関りを絶たれ、さら には文化的世界も神喪失に陥ってきた。

宗教は結局、現世拒否のakosmismになるのだろうか。 そうなると、自然的世界は結局エントロピーによって終焉し、文化的 世界には「聖化」も「成就」もないことになろう。しかしキリスト教は 世界喪失の宗教であり得るだろうか。

そうでないとしたら、キリスト教は世界をどう取り戻すのか。

日時: 11月16日(水) 16:30~18:30

場所:慶應義塾大学日吉キャンパス

来往舎2階大会議室

対象:研究者、塾生・教職員・塾員

★入場無料・予約不要★



近藤 勝彦(東京神学大学理事長)

高校生のときプロテスタント教会で洗礼を受け、牧師・伝道者として献身する志を与えられた。

東京大学文学部哲学科卒業、東京神学大学修士課程修了。日本基督教団牧師として暫く働いた後、ドイツのチュービンゲン大学に留学。エルンスト・トレルチの研究で神学博士。

その後、東京神学大学教授、学長を経て、現在は同大学理事長。銀座教会協力牧師。専門は組織神学。

著書に『キリスト教倫理学』『キリスト教弁証学』『キリスト教教義学上・下』、その他説教集『死のただ中の命』など(いずれも教文館より出版)。

お問合せ、tolawase-lib@adst.keio.ac.jp